

誰もが利用しやすい図書館をめざして

～高齢者・障がい者サービス、できることからスタート～

【概要版】

【第1章】(社会的背景)

- ・図書館法
- ・「障害者の権利に関する条約」
- ・「障害者差別解消法」
→合理的配慮提供の義務(行政機関)
- ・「図書館における障害を理由とする差別の解消の推進に関するガイドライン」(日本図書館協会)
- ・高齢化率の伸び

【第1章】(現状)

- ・図書館利用の“社会的障壁”への気づき
- ・障がい者や高齢者に対するサービスのノウハウ不足

【調査研究の目的】

- 1 高齢者・障がい者サービスの取組に関する道内公立図書館等の実態を把握する。
- 2 実践事例を検証し、今後の各館での対応の参考に資する。

【第2章】 高齢者・障がい者サービス取組の 現状(アンケート調査)

調査期間：平成28年7月
回答：道内160自治体
207館/291館
高齢者サービス実施
113館/207館
障がい者サービス実施
105館/207館

特徴的事例の聞き取り調査

<課題と方向性>

- ① 施設・設備・資料整備
- ② 職員のスキル向上
- ③ PR不足

【第3章】 道内図書館等実践事例

- ・高齢者向けブックリスト(京極町)
- ・敬老会での福祉担当部署との連携(京極町)
- ・高齢者用新着図書情報(佐呂間町)
- ・本の宅配サービス(白老町)
- ・認知症カフェ(滝川市)
- ・対面朗読(函館市)
- ・デジター機器貸出(函館市)
- ・障がい者向け資料リスト(函館市)
- ・認知症サポーター養成講座受講(日高町)
- ・養護学校児童生徒の図書館利用体験(平取町)
- ・高齢者・障がい者対象映画会(八雲町)
- ・町広報のCD化(八雲町)

【第4章】 道外図書館先進事例

- ・「サピエ」を活用した録音資料貸出(岡山県立図書館)
- ・手話ブックトーク(大阪府枚方市)
- ・聴覚障がい者のための利用案内(大阪府枚方市)
- ・手話サークル、ろう者関係団体への直接PR(大阪府枚方市)
- ・介護福祉施設訪問「元気はいたつ便」(愛知県田原市)

【第5章】 これからの展開のために

道内のアンケート調査結果や道内外の実践事例から、各館の状況に合わせた“次の一歩”を考える。(一例)

<もの>

- ・設備の充実(老眼鏡・コミュニケーションボードなど)
- ・資料の整備(大活字本・LLブック・録音図書など)

<ひと>

- ・職員のスキル向上
- ・関係機関との連携
- ・ボランティアとの協働
- ・図書館間の協力

<サービス>

- ・ブックリスト作成
- ・施設等での読み聞かせ
- ・回想法
- ・バリアフリー映画会
- ・非来館者サービス

<PR>

- ・分かりやすい案内
- ・見やすいチラシ
- ・関係する団体への直接周知
- ・ホームページ掲載
- ・関係機関の発送を利用